

施策名		211 地域の福祉活動を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	△	本施策では、自助、公助、共助を組み合わせることを期待しているが、共助は地域福祉団体だけでなく、区民が直接参加することも手段の一つとして考えられ、現状の手段は適切であるが、目標に照らすと、投入(事務事業数)が不十分ではないかと考える。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	地域福祉活動団体との協働事業数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	△	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、指標は全て定量的に計測されているが、単に実施している事業の数だけで施策の成果を反映した指標としては説得力を欠いている。 ・利用者や裨益者を対象とするアンケート結果などの定性的な評価を指標に盛り込むことを検討して欲しい。 	
	ア) 代表性	△		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	—		
	オ) 総合	○		
	目標の妥当性	△	・1年で10件も増えたにもかかわらず、今後4年で3件しか増えないという目標を立てた根拠がわからない。	
	指標②	地域福祉活動団体交流会の参加者人数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	△	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ人が繰り返し交流会に参加する可能性があることを考慮すると、延べ人数のカウントは必ずしも活動の拡大を意味しないのではないかと。 ・代行指標として、各団体の登録者数や、利用者や裨益者を対象としたアンケート結果等が考えられるのではないかと。 	
	ア) 代表性	△		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
エ) その他	—			
オ) 総合	△			
目標の妥当性	△	・50人に一人の参加が果たして妥当なのか、わからない。(根拠の確認が必要)		
指標③	移動サービス団体の利用会員数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	△	<ul style="list-style-type: none"> ・この指標は、事務事業「福祉有償運送支援事務」の成果指標としては適切であるが、その他の事務事業との関連性は低いため、施策の成果指標としてはあまり適切でないと思われる。 		
ア) 代表性	△			
イ) わかりやすさ	○			
ウ) 普遍性	○			
エ) その他	—			
オ) 総合	△			
目標の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・規制により全国的には活動が縮小傾向にあるというが、そこに至った背景や理由によっては、練馬区として活動規模を維持し、会員を拡大させることの意義を見直す必要があるのではないかと。外部環境の変化に対して活動を推進する理由が知りたい。 		
指標全体の評価	指標の代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・施策名は地域の「福祉活動」を支援するとしているが、指標は地域福祉活動団体との「連携」が中心の指標となっている。施策の目的に照らし、現状の3つの指標がその目的に沿っているかは疑問が残る。 ・区民の声が反映されるような指標を組み込むことも一案である。 	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	—	比較対象のデータがないため、時系列での変化は把握できなかった。	

【評価】 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) —:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか	—	・比較対象の起点となる17年度の実績情報が提供されていない中でこの項目について判断はできない。	
イ)記載内容の正確性	—	・正確性を確認するためには全ての事務事業の経費や財源を再度算出する必要があり、この作業を部会に委ねるのは時間的制約から無理がある。	
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	△ ○	・既存の指標の推移からみて、評価区分は妥当である。 ・ただし、指標そのものの選択が十分でないという点では△。後日、最終的な判断を行う。
	イ)判断理由の妥当性	△ ○	・既存の指標の推移からみて、評価区分は妥当である。 ・ただし、指標そのものの選択が十分でないという点では△。後日、最終的な判断を行う。
	ウ)その他	—	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△	判断の根拠がない。
	イ)判断理由の妥当性	△	判断の根拠がない。
	ウ)その他	—	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	・内部要因②「..NPOとの協働により事業を進める手法が一般化してきた」とあるが、一般化することと施策の成果が上がることの因果関係がわかりにくい。区民にわかるように書き直す必要がある。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	特に問題なし
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	特に問題なし
	イ)判断理由の妥当性	○	特に問題なし
	ウ)その他	—	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)評価結果との関連性	○		
イ)内容の具体性	△	①の改善案として、講座参加者からできるだけ多くの住民が活動につながるような工夫をしていく。とあるが、どのようにすれば活動につながると考えるのか、また工夫とは具体的にどういうことかの説明が必要。 ②地域福祉活動団体とも連携を取りながら進めていく。とあるが、これまでもある程度の連携はあったと推測される。これまで以上の連携とは具体的にどういうことか、共助の観点も入れつつ、区民にわかりやすい説明に書き直す必要がある。	
ウ)その他	—		
(6)その他			
その他			

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) —:該当なし

施策名		221 健康づくりを支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	・適切・妥当と判断する。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		生活習慣病基本健康診査受診率	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・指標としてはわかりやすいが、本指標は事務事業「生活習慣病健康診査事業」の成果指標であり、施策の指標としての代表性については疑問が残る。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他		
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	△	・企業に属する人の検診率は100%に近いことを考えると、77%は低いように思う。根拠を提示して欲しい。	
	指標②		乳幼児健康診査受診率	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・指標としてはわかりやすいが、本指標は事務事業「母子健康診査事業」の成果指標であり、施策の指標としての代表性については疑問が残る。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他		
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	○	・適切・妥当と判断する。		
指標③		運動方法を習得し、継続的に実施できると回答した人の割合		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	△	・区として、区民が進んで健康づくりに取組める様にする仕組みを作るような事務事業が施策の手段として十分にとられていない中、「運動方法を習得し、継続的に実施できると回答した人の割合」を指標とするのには無理があるように思う。 ・アンケートは何処で、どのようにとるかによっても、指標の代表性や普遍性は大きく左右される。 ・アンケートの対象となる母集団は何か。いわゆる「冷やかし組」を除外して母集団を設定する必要がある。	
	イ) わかりやすさ	△		
	ウ) 普遍性	△		
	エ) その他			
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	△	・目標値の根拠が明確でないため判断ができない。		
指標全体の評価	指標の代表性	△	コメント・改善点 ・世代別に指標が立てられていることは理解できるが、指標から漏れている世代(小中学生)もあり、世代横断的な指標を検討する必要がある。 ・本施策のニーズが「医療費等の社会的な負担の増大を抑制するため」なのであれば、年間医療費の推移を中心的な指標とした方がより適切なのではないか。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	○	コメント ・代表性に欠ける点はあるが、既存の指標の成果は上がっている。	

【評価】 ○: 良い (重要) △: やや疑問 (あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		—	・比較対象の起点となる17年度の実績情報が提供されていない中でこの項目について判断はできない。
イ)記載内容の正確性		—	・正確性を確認するためには全ての事務事業の経費や財源を再度算出する必要があり、この作業を部会に委ねるのは時間的制約から無理がある。
(4)評価について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	○	・評価区分は妥当と考える。
	イ)判断理由の妥当性	△	・「成果が上がっていない」ことについての判断理由が記述されていない。 ・より具体性のある記述が望ましい。
	ウ)その他	—	
成 果 と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	○	・特に問題ない。
	イ)判断理由の妥当性	○	・評価の判断理由については、区民の立場からわかりにくいいため、より具体的に記述することが望ましい。
	ウ)その他	—	
要 因 分 析	内部 要因 記載内容の妥当性	○	・情報が不十分であるため、より具体的に記述することが望ましい。
	外部 要因 記載内容の妥当性	○	・適切・妥当と判断する。
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	○	・適切・妥当と判断する。
	イ)判断理由の妥当性	△	・ここは世代別各種検診の受診率により妥当性を議論するのではなく、年間医療費の推移から議論がなされるべきではないか。そういう意味で決め手に欠ける。
	ウ)その他	—	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
ア)評価結果との関連性		○	・適切・妥当と判断する。
イ)内容の具体性		○	・「実施体制を整える」とあるが、誰が何をするのかより具体的に記述することが望ましい。
ウ)その他		—	
(6)その他			
その他			

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) —:該当なし

施策名		231 地域で子供を支える		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	事務事業の内容は施策の目的を達成する手段として適当であるが、施策名に照らすと、事務事業に手段が全て網羅されているとは思えない。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		子育てひろばの整備箇所数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する	
	指標②		ファミリーサポートセンター事業の利用延件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	○	目標値設定の説明がわかりにくい。		
指標③		なし		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		△	施策全体の内容に照らすと、乳幼児を対象とした指標に偏っているという印象。「子供の年齢別(乳幼児、小学生、中学生)に、保護者に対する満足度を測る、区民参加の視点を入れる等、指標を追加すべき。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		○	適切・妥当と判断する	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) —:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか	-	
イ)記載内容の正確性	-	
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ)判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ)その他	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△ 判断の根拠がない
	イ)判断理由の妥当性	△ 成果と経費の事と関係のないことが理由として記述されている。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ①、②ともになに(どのような結果)に対する要因なのか文言からは読み取りにくい。区民がわかりやすい表現で書くべきである。
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ①、②ともになに(どのような結果)に対する要因なのか文言からは読み取りにくい。区民がわかりやすい表現で書くべきである。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ)判断理由の妥当性	○ 満足度調査の結果等が反映されるとよりわかりやすい。
	ウ)その他	- ・指標のみから判断すれば妥当であるが、施策としての指標が十分と思えないため、良好に進んでいるとは言い切れない。 ・地域で子育てを支えるためには、区民の大人がもっと参加できるようなしくみが必要と思うが、現在は、区が中心の支援事業ばかりで、区民参加を促進するしくみが見えていない。 その様な事務事業とその指標が必要だと思う。
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
	ア)評価結果との関連性	○ 適切・妥当と判断する。
	イ)内容の具体性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ)その他	ア)、イ)共に説明が十分とはいえない。改善案とはその要因を真因まで掘り下げ、その真因に対して5W1Hで具体化する物と考える。
(6)その他		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に主語、結語がない文章が多いため、何を言わんとしているのかがよくわからない。 ・区民参加のしくみには、何らかのインセンティブが必要と思う。例えば相互扶助ポイント(地域通貨)など。 ・事務事業評価表 NO15 子育てのひろばびよびよ事業は、混雑していてなかなか利用が難しいという声もあるようだ。施設の数を増やすことも大事だが、満足度などの観点も必要ではないか。 ・事務事業評価表 NO2 育児学級等事業 目標に対して参加者が少ないのは、周知方法化、プログラム内容なのか、目標自体に無理があるのか要検討。 ・助成事務、認定支給事務については、滞りなく実施されており、指標にもなっていないが、区民からの要望について、対応可能な部分は対応していただきたい。 ・これらの事業の広報普及活動がどのようになされているのか知りたい。区民の間での認知度についてのデータを見たい。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		242 高齢者の多様な社会参加を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	事務事業の内容は施策の目的を達成する手段として適当であるが、施策名に照らすと、事務事業に手段が全て網羅されているとは思えない。特に、多様な社会参加を受け入れる組織の視点が抜けているように思う。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	地域福祉パワーアップカレッジねりまの60歳以上の卒業生のうち、社会活動参加をして		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・パワーアップカレッジは事業が開始されたばかりであり、区民からもあまり認知されていない中で施策の成果指標としてあげることに疑問が残る。 ・地域福祉パワーアップカレッジねりまを受講する方は、そもそも社会参加活動の意欲が強く、この方たちの継続状況が『高齢者が社会を担う一員として活躍している状態』を代表する指標とは考えにくい。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	△	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	△	・30%の根拠が明確でない。希望値としてもとれるため、基準を明確にすべきである。	
	指標②	アクティブシニア支援室における就職件数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・アクティブシニア支援室の実績が一つの指標となることは理解できるが、下位の高齢者センター・敬老館の運営、シルバー人材センターの活動等、「高齢者の多様な社会参加」の状況を見る視点としては代表的な指標とは言えない。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	△	
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		△	・アクティブシニアに対する支援だけを考えるならば適切といえるが、高齢者の就職活動だけに限定するのではなく、「高齢者の社会参加」という視点での指標も検討していただきたい。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
△	実績がない事業を指標としているため、現時点では判断できない			

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) —:該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか	-		
イ)記載内容の正確性	-		
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	△ ・①の指標は実績がないため、施策との成果として評価区分の妥当性を判断するのは時期尚早と考える。 ・成果の判断がAとBの2択しかない点にも問題がある。	
	イ)判断理由の妥当性	△ 同上の理由	
	ウ)その他		
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△ 事業が新しいため判断できない。	
	イ)判断理由の妥当性	△ 事業が新しいため判断できない。就職率の増加のみの実績を以て、成果と経費の比較について適切であると判断するのは難しい。	
	ウ)その他	-	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ・適切・妥当と判断する ・内部で創意工夫を行った事項について記載して欲しい。	
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ・適切・妥当と判断する ・ここで指摘された外部要因への区の具体的な対応策について、(5)改革・改善案で詳しく述べられる必要がある。	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する	
	イ)判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する	
	ウ)その他	-	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)評価結果との関連性	○	適切・妥当と判断する	
	イ)内容の具体性	○	適切・妥当と判断する。
	ウ)その他	-	
(6)その他			
その他		<p>・全体としてよく書けているが、指標の目標設定の欄には、目標値のみならず、根拠についてもきちんと記載すべき。後から提出された資料等で多くは理解できるが、一般区民がこうした資料を探しあてるのではなく、評価シートを読めば全てわかるようにして欲しい。</p> <p>・障害者の福祉工房／作業所の労働収入は月額数千円から1万円程度である。労働意欲が湧いてくる金額ではない。金額の改善も求められるが、お金以外に就労の喜びが感じ取れる社会にしていく施策が必要である。企業の受け入れ拡大は困難と思われるため、福祉工房／作業所の数拡大を考えていく必要があるだろう。</p> <p>・障害者の就職率を高めるためには、障害者とその家族への働きかけに加え、区として、練馬区内企業への働きかけをもっと行っていくことが重要と考える。</p>	

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		254 障害者の就労・社会参加を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	適切・妥当と判断する。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		障害者の就職者数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	・就労を希望する障害者の何%が就職できているという相対指標の方が客観性がある。就職者数だけでは、他区などとの比較検討ができない。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	・目標設定の根拠が明確でない。	
	指標②		障害者の職場定着率	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する。		
指標③		障害者雇用率		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	—		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		○	・適切・妥当と判断する。 ・ネットワーク構築に関する事業成果が評価できる定量的指標があるとなおよい。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
	○	適切・妥当と判断する。		

【評価】 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) —:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ)判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ)その他	—
成 果 と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	○ 特に問題はない
	イ)判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ)その他	—
要 因 分 析	内部要因 記載内容の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ・適切・妥当と判断する ・法律だけで一方的に協力すべきとするのではなく、企業にもメリットがあるように運用しないと、短期に行き詰まるとされる。
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ)判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ)その他	—
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
	ア)評価結果との関連性	○ 適切・妥当と判断する
	イ)内容の具体性	○ ・適切・妥当と判断する ・地元企業に提案するとあるが、より具体的な記述があるとよい。
	ウ)その他	—
(6)その他		
その他		<p>・全体としてよく書けているが、指標の目標設定の欄には、目標値のみならず、根拠についてもきちんと記載すべき。後から提出された資料等で多くは理解できるが、一般区民がこうした資料を探しあてるのではなく、評価シートを読めば全てわかるようにして欲しい。</p> <p>・障害者の福祉工房／作業所の労働収入は月額数千円から1万円程度である。労働意欲が湧いてくる金額ではない。金額の改善も求められるが、お金以外に就労の喜びが感じ取れる社会にしていく施策が必要である。企業の受け入れ拡大は困難と思われるため、福祉工房／作業所の数拡大を考えていく必要があるだろう。</p> <p>・障害者の就職率を高めるためには、障害者とその家族への働きかけに加え、区として、練馬区内企業への働きかけをもっと行っていくことが重要と考える。</p>

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) —:該当なし

施策名		NO.261 生活の安定のための支援を行う		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	適切・妥当と判断する		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		就労支援専門員により就労支援した人数	
	視点		評価	コメント・改善点
	指標の性質	ア) 代表性	△	・人数では、客観性が無く指標の代表性としては不十分と考える。地区担当員などが自立したい人の数を把握し、その中の何%を支援したかなどの客観的数字で結果を判断するようにはどうか。 ・上位施策は「生活の安定のための支援」である。就労支援の人数はイコール就労者の人数ではないと考えると、必ずしも生活の安定に繋がらない。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性		△	・目標が増加では、妥当性は測れない。過去の実績と現状から目標の設定を試みるべきである。
	指標②		就労支援専門員による就労支援により就労した人数	
	視点		評価	コメント・改善点
	指標の性質	ア) 代表性	△	・人数では客観性が無く指標の代表性としては不十分。地区担当員などが自立したい人の数を把握し、その中の何%が就労したなどの客観的数字で結果を判断したい
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	—	
		オ) 総合	△	
目標の妥当性		△	・目標が増加では、妥当性は測れない。過去の実績と現状から目標の設定を試みるべきである。	
指標③		なし		
視点		評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性		評価 △ ・施策の指標としては上記①②だけでは十分でない。さらなる検討が必要と思われる。 ・困窮所帯が自立している状態の指標や安定して生活しているとは何かを考え、それらを指標に入れることも必要ではないのか。 ・生活保護世帯数を人口比で見ると、全国や都の平均値との比較から練馬区の目標値を設定を試みるべきである。 ・指標として就労支援に関するものだけが取り上げられているが、就学支援など他の援護事務の成果指標も取り入れることを検討して欲しい。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)		評価 ○ ・目標値が「増加」だけなのに何を以て達成と言えるか判断に苦しむ。	
			コメント	

〔評価〕 ○: 良い(重要) △: やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) —: 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	○ 目標が、増加だけなのに何を持って成果が上がっていると言うのか判断に苦しむ。
	イ)判断理由の妥当性	○ 目標が、増加だけなのに何を持って①、②とも目標達成と言えるか判断に苦しむ。
	ウ)その他	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○ 上記「成果」の項目に同じ理由。
	イ)判断理由の妥当性	○ 上記「成果」の項目に同じ理由。
	ウ)その他	—
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ・成果指標①に示された実績値からみると、多様な専門家が確保されていると考えられる。どのような分野の方々がどのような方法により支援しているのか興味がある。 ・ノウハウを備えた就労支援専門家とはどういう人か等、より具体的な説明があるとわかりやすい。 ・要因分析はより多面的に行われることが望ましい。
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ・「雇用環境の改善が続いている」ことについて、国なのか、区なのか、より具体的な説明が欲しい。 ・非正規雇用の環境が良い理由を明記するとなお良い。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○ ・良好に進んでいる面もあると思うが、目標値の設定が曖昧であるため、結果が一面的であり、目標値に対してどのように実績がどのように接近しているのか等は不明である。
	イ)判断理由の妥当性	○ ・就労により、困窮区民の自立に効果があった事は認めるが、就労以外にも、自立、安定生活の手段もあるので、取り多面的な指標を設定していく必要があるのではないか。
	ウ)その他	— ・就労により、困窮区民の自立に効果があった事は認めるが、就労以外にも、自立、安定生活の手段もあるので、取り多面的な指標を設定していく必要があるのではないか。 ・設定された指標だけみれば、適切であるが、この指標では施策全体としての評価を判断できない。
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)評価結果との関連性	○	評価結果から、なぜ①から④の改善が必要であるのか、関連性が読み取れない。
イ)内容の具体性	○	明記された改善案を進めることにより、何がどうなるのか、より具体的な説明が必要である。
ウ)その他		
(6)その他		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・施策の対象者が限定されなければ評価はできない。少なくとも保護人員数を算出すべき。 ・指標については、代表性の観点からさらなる検討がなされるべきである。 ・単に支援するだけでは、甘えの原因ともなるので、体が元気であれば、他の人を助ける共助などのボランティア活動を増加させる手段はないのか？ ・16年度と18年度の比較を単純には出来ないが・・・16年度は就労支援した人数が204名で就労人数が56名(27.5%)、就労出来なかった人は148人である。18年度は就労支援した人数が446名で就労人数が173名(38.8%)である。しかしながら就労出来なかった人は273名いる。未就労者の人数を減らすことが成果とも考えられる。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問(情報不足等により判断が困難) ×:妥当性を欠く(問題あり) —:該当なし

施策名		NO.312 地域とともに歩む学校づくりを推進する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	適切・妥当と判断する		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	学校応援団構成員数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	・下位の事務事業では、応援団校数と応援団の人数を取っているが、施策の指標として人数だけを取っているのは代表性に不十分と思われる。例えば、校数と各校当たりの人数とした方が良いのではないか。	
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 普遍性		
		エ) その他		
		オ) 総合		
	目標の妥当性	△	・上記理由による。(各学校に何人の応援団がいればよいのかなどを調査し、それを目標にすべき。)	
	指標②	学校安全安心ボランティア事業		
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	・適切・妥当と判断する ・分かりやすい。 ・地域住民ボランティアの積極的な活用はよい。		
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する		
指標③	学校評議員設置園・校数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	適切・妥当と判断する		
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性	○	・適切・妥当と判断する ・早く100%を達成して欲しい。		
指標全体の評価	指標の代表性	○	・①と②の指標は小学校が対象となっており、中学校、幼稚園の指標は③しかない。施策の対象が幼、小、中となっていることから、指標の代表性について若干疑問が残る。 ・施策の成果という観点からは、受益者となる児童生徒や保護者が、学校の内外でどの程度安全安心を感じているかといったことを調査し、それを指標化することも可能ではないか。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	○	適切・妥当と判断する	

【評価】 ○: 良い(重要) △: やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	○	適切・妥当と判断する
	イ)判断理由の妥当性	○	適切・妥当と判断する
	ウ)その他		
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	○	適切・妥当と判断する
	イ)判断理由の妥当性	○	適切・妥当と判断する
	ウ)その他	—	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△	何をどのように見直し、検討した結果なのか、成果と要因との関係についてより詳しく記載して欲しい。
	外部要因 記載内容の妥当性	△	どういう観点から浸透したと判断し、また、どういう点で活動がやりやすくなったのか、より具体的に記載して欲しい。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	適切・妥当と判断する
	イ)判断理由の妥当性	○	単に目標値を記載しただけと言える。
	ウ)その他	—	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
	ア)評価結果との関連性	○	適切・妥当と判断する
	イ)内容の具体性	△	・何をどのように改善するのかがわかりにくい。単に目標値を記載しただけと言える。
	ウ)その他	—	
(6)その他			
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・対象は、小中学校ではないかと思うが、小学校だけに対する事務事業のように取れるが、それでよいのか。 ・保護者や児童生徒の意見をもっと広く把握した方が良いのでは？(より理解を得るために) 	

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) —:該当なし